

南足柄市立足柄台中学校

研究テーマ：「一人ひとりの『学び』を育む指導の工夫」
～学びを人生や社会に生かそうとする力の育成～

1 実践の目的

「生きる力 学びの、その先へ」(文部科学省,2019)によると、「これからの社会が、どんなに変化しても予測困難になっても、自らの課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断し行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。」となっている。

また、南足柄市の目指す子ども像として「夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子ども」を掲げており、「確かな学力」の向上を目指した指導の工夫・改善を研究テーマとしている。特に探究型授業に重きを置いて推進しているその研究を、本校の校内研究のベースとして考えていきたい。

2 実践の内容

1 重点的な取り組み

本校の研究テーマを達成させるために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的推進を目指し授業に取り組んでいる。

「個別最適な学び」の中でも、子ども一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が多く見られる。数学では、問題に答えるときに、タブレットPCを使って調べたり、教師に質問したり、クラスメートと話し合ったりすることで、学習者である生徒が自分自身に合った方法を選択できるようにしている。

また、生徒の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師が子ども一人ひとり

に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する「学習の個性化」も意識して取り組んでいる。英語科の作文活動では、「目的・場面・状況」を共有した中で、自由なテーマ設定を行い、マッピングの手法を使いながらそのテーマに向かってそれぞれが調整する姿勢が見られた。

さらには、生徒同士で、持続可能な社会の創り手となれるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」ができるように授業改善を図っている。社会科では、中学生が選挙をより身近に感じられるように、生徒がグループごとに新たな公約を考え、建設的な意見をお互いに伝え合う中でよりよい未来や社会について考えを深めた。またスライド資料作成時にも、互いの知識を深めるために、どのような資料が伝わりやすいかを伝え合いながら作成を進めた。



<3年社会科の授業の様子>

4班 ○○ありが党

- 1 消費税5%に下げる
- 2 医療に関する学費2割負担
- 3 生産者・企業の支援
- 4 子供が3人以上家庭の月30万提供
- 5 育休中に給付金提供
- 6 最低賃金の引き上げ



<3年社会科 グループ政党の公約>

2 研究授業・研究協議の工夫

本校では、年間1人1回の研究授業を行っており、授業当日に、全参観者による研究協議を放課後に行っている。授業づくりには、ICT機器の活用もしくは、シンキングツールなどを用いた言語活動の充実を取り入れている。研究協議には、タブレットPCを利用し、協議の見える化と意見の共有を図っている。

今年度は職員を6グループにわけて、教科を超えてお互いに参観し、さまざまな視点や他教科とのつながりを意識したなかで、考えや意見を交わして、互いの授業の向上を図っている。

また、研究全体会における研究協議では、出た意見を模造紙ではなく、スライドにまとめ、3分程度で各グループが発表することでより理解を深めることができた。

■多面的・多角的な視点

- ◎質問があることで、より内容を深めることができる。
- ◎手元のPCで疑問点を調べ、質問する姿

自分の考えとは違う意見に触れる



<研究グループ グループのまとめ>



<タブレットPCによる付箋紙>

3 実践の成果

今年度の実践を通して、生徒一人ひとりの個のニーズを教師が細かく把握し、授業に生かすことで、その授業が「楽しい」と感じる生徒が増えている。授業の中で生徒がアクティブに参加し、生徒同士や教師と生徒の主体的で対話的な活動が増え、生徒の思考力・判断力・表現力の土台作りにつながっている。

また、授業で学んだことがこの先の社会や未来にどうつながっていくのかを身近な学習課題で考えさせることで、学びを人生や社会に生かそうとする力の育成につながっていくという認識を教員間で共有することができた。

4 今後の展開

今後の授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わせられて実現されていくことが多いと考える。例えば授業の中での「個別最適な学び」を通して生まれた個の学びの深まりが、「協働的な学び」を充実させ、そこで生まれた新たな気づきや考えを「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還を意識した実践を充実させていきたい。